

真貝庸平(Shingai Youichi) 氏を訪ねる  
群馬県太田市 (株)山梅

刈りメン部門 実務9年

新田ナーセリーを訪ねる

梅雨の晴れ間、大径木がランドマークの新田ナーセリーに向う。山梅の植物材料の生産基地、広さ 10 町歩(30,000 坪、約 100,000 m<sup>2</sup>)で約 200 種類を育てている。ナーセリーの管理運営をしている5人のうちの1人、真貝氏を訪ねた。あまりしゃべらないと上司から聞いていたが、無駄口は嫌いというのが正しい表現のようだ。

自然が好きなので、農林大学校で林学系を学ぶ。造園業は3Kの仕事という印象があり、就く気はなかったが、山梅のインターンシップで1週間学んだ折りに、指導者がいい人ばかりだったので入社したとのこと。人に惹かれて早8年である。若い頃は・・・と会話に出るので、聞き手のおばさんたちは、20代は若いよ〜と返す。28歳だが若い頃を回顧する仕事を話しはじめた。

疑問のある材料は後悔の元

林学出身だが樹木の名前も知らなかったし、当然のことながら生産する品の見極めもできなかった。そんな氏に対し怖い人、やさしい人、技術に厳しい人、ざっくり教えてくれる人など、色々なタイプの指導者が揃った環境が氏の仕事に対する意識を変え、商材管理の厳しい目を養うことになる。そして、多くの商材の中でこれは良くないと引っ掛かりを感じたものは、気になって植栽後の確認に行くとイメージ通り、良い結果にはなっていない。なぜか？商材の状態、ちょっとした傷、土壌との相性、現場の管理状況等、その分析結果が体にたたき込まれていく。また他社から購入した樹木の根巻きで、良いと思ったものは解いて巻き方を知ることが楽しいそうだ。



だからクライアントの希望に応じながら、さらに先を見据えたより良い提案を行い、結果として信頼を得る。上司曰く「オールラウンドプレイヤーです。もうまかせていけば間違いはありません」と。

手や体にフィットする道具立てにこだわり、自分流に徹する姿勢は、仕事ぶりにも通じるものがある。

車とおしゃれが趣味

そんな氏は比較的一人での沈黙思考を好む。車を飛ばしながら考える時間が好きだという。今はつきあっている人はいないが、自然体でいたいらしい。

一方、ファッションにはこだわりがあるそうで、ショッピングが好き！聞けば社のファッションリーダーだと上司の弁である。作業着では解らないから是非、私服の写真をとというと、「わかりました」と笑顔で即答したが、テレがあったか私服写真の送付はなかったのが残念！

男女の差なく多くの人を業界へ

この業界での女性の仕事を訪ねると、業界うんぬんというより、性差を考える必要を感じないので、誰もが自分に向けた仕事をやって欲しいとのこと。そして女性独特の感性も活かして欲しいとのことだった。したがって、業界へ望むことは、男女に差をつけることなく、誰もが働きやすい環境づくりを推進してもらいたとのことである。ちなみに自社のユニフォームについて男女が異なる色を着用しているが、同じでいいという。本社で氏の発言を伝えると、実は同色を考えてが、メーカーにサイズがないのだそうだ。

真貝さん、メーカーの対応力が整ってないですよ！

また、後輩たちへは、シンプルだけれど自信が持てるまでは徹底してがんばることが、早道だと解いた。人の魅力で入社した氏は、これから自身の魅力で多くの後進たちに影響を与えていくことだろう。

取材担当:阪上恵保巳

